



きになることがあつたら、もどってもいいよ

7階から6階へ、時代の流れに沿って展示しています。クイズのヒントは、【 】の展示の中にあります。クイズのこたえは、展示室の出口（6階）にあります。

【家族の別れ】

昭和の時代、日本と外国との戦争がありました。

出征する人におくられた「千人針」を見てみましょう。糸の結び目は、一針ずつ、多くの女性にたのんで結んでもらったものです。おくれた人は、腹巻きや、服の裏地として身につけました。

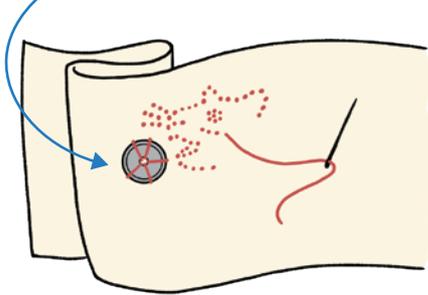
キーワード

出征・・・兵士になって戦地へ行くこと。当時の男性はみんな、20歳になると、兵士になるための検査を受ける決まりでした。

銭・・・1円より小さいお金の単位です。70年くらい前まで実際に使われていました。1銭の100倍が1円でした。

銃後・・・兵士が出征したあとの日本全体のことや、直接戦地には行かない、国内の人たちのことをそう呼んでいました。

お金（5銭や10銭）がぬいつけられたものもあります



もし家族や、身近な人が出征することになったら・・・？ 千人針にこめられた願いを想像してみましょう。

7階では、戦争が終わる昭和20年（1945）8月までの、銃後の人々の暮らしについて知ることができます。

昭和の初めの暮らし ～昭和10年（1935）ごろ～

1 【昭和10年頃の家庭】

色々な生活の道具を見て、今から90年くらい前の家庭を思い浮かべてみましょう。世の中のできごとでいえば、日本と中国の戦争（日中戦争）が始まる少し前です。

次の3つの中で、そのころにはもう使われていた電化製品はどれでしょう？

- ①テレビ ②ラジオ ③冷蔵庫



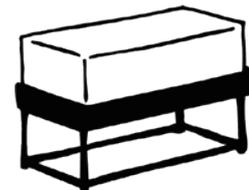
お湯をわかす時やアイロンには、電気じゃなくて、炭火を使ってたんだね



炭入れ

ワークシートを使う時は・・・

●展示台やガラスの上には物を置かず、手元で書きましょう



戦争が始まると、暮らしの色々な面に、変化が起きました。

2 【統制下の暮らし】

昭和12年に日中戦争が始まると、**統制**によって、資源や食べ物の節約が呼びかけられました。そこで考え出されたのが「**代用品**」です。展示している代用品をひとつ選んで、調べてみましょう。

スケッチ

使われている材料や特ちょう

統制・・・国が国民の生活を指導して制限すること。日本は、国民全員を戦争に協力させるため、厳しい統制をしました。このため、ぜいたくはできなくなりました。

代用品・・・それまでとは別の材料で作られたもの。金属や革に代わり、竹・紙・陶器などで作られた製品が増えました。国は金属や革を集めて、戦争のため(例えば武器や兵士のくつなど)に使いました。

空襲・・・飛行機で空中からこうげきをすること。軍隊の基地や工場のある都市を中心に、全国でひ害がありました。

疎開・・・空襲の危険が少ない地域へ移り住むこと。家族で親せきの所へ行くほか、家族とはなれて学校のみなどと共に生活する「学童疎開」もありました。

3 【戦中の学童・学徒】

学校では、将来立派な兵士となって戦うことや、兵士を支え国を守ることを教わりました。また、都市では**空襲**の危険が大きいため、**疎開**がすすめられました。「学童疎開」に関する物を見て、疎開した子どもたちの生活を想像してみましょう。



インターネットはまだないから、家族に何か伝えたい時は・・・

4 【銃後の備えと空襲】

人々は、空襲から身を守るために防空壕を作り、水や非常食を準備しました。それでもたくさんの方が亡くなりました。

空襲に備えるための、服装や持ち物を見てみましょう。実物を見つけたら、□に印をつけましょう。

あたま 頭を守る!

□ 防空頭巾

うご 動きやすい!

□ モンペ

すい 水とう

□ 水とう

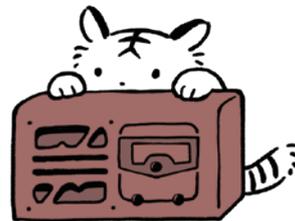
□ かたかけかばん

□ 持ち物につけた名札

たいけん ☆体験しよう **防空壕**

くら 暗い!

めだ 目立たないように、あ 明かりはつけないんだね・・・



【昭和20年8月15日】

この日の正午、ラジオで玉音放送が流れ、終戦の知らせが全国に届きました。



【終戦直後の日本】

パネルの「銀座復興絵巻」は、終戦すぐのころにえがかれました。焼けあとや、こわれた建物が残る風景を見てみましょう。

なんとか日本へ帰ってきた人もいれば、家族を亡くした人もいます。中には進駐軍の兵士の姿もあります。

それぞれ、どんなことを思っているのか、想像してみましょう。



キーワード

玉音放送・・・戦争を終わらせることを、昭和天皇が話して伝えた放送。生放送ではなく、録音した声が流れました。

進駐軍・・・戦後の約7年間、アメリカを中心とする複数の国(連合国)が日本を占領しました。連合国の軍隊のことを進駐軍と呼びました。進駐軍は、日本の政治や教育について指導を行いました。

6階では、戦後の社会とくらしの変化や、発展してきた新しい文化について知ることができます。

戦後のくらし ~昭和20年(1945)から40年(1965)ごろ~

5 【廃墟からの出発】

戦争は終わっても、こわれた建物を建て直すのが大変です。それに、食べ物や生活に必要な物が十分に足りないことがしばらく続きました。闇市で出されていた食事をさがしてみましょう。

「残飯シチュー」と呼ばれています



残飯って、進駐軍のゴミってこと!? でも何か食べなきゃ死んじゃうし...う~ん...

6 【遺された家族】

遺族となった女性や子どもたちは、たくさん働いてお金がかせがなければ、生きていけません。ある女性が仕事に使っていた、この道具は何でしょう?

写真をヒントにさがして、カタカナ3文字で書きましょう

Three empty boxes for writing the katakana characters.

子どもでも、家族のために新聞配達で働いたりしたんだって!



闇市・・・駅前などにできた、公に認められていない(違法の)市場。値段が高くて質のよくない物でも、買いたい人は大勢いました。

遺族・・・亡くなった人の家族。戦中は、出征して死ぬことは立派だとほめられ、戦死者の遺族へのお金の支給もありました。終戦直後には、お金の支給がなくなりました。それに今と比べても、女性が仕事につくこと自体が難しかったので、遺族の生活は厳しいものでした。

7 【子どもたちの戦後】

戦後すぐのころの学校では、「**墨塗り教科書**」が使われました。戦中と戦後で、学校で学ぶことや大切に考える考え方が変わったのです。墨塗り前の教科書（戦中に使っていたもの）と見比べて、どんなふうになったのか、考えてみましょう。



3 のころと比べて、学校や遊びの様子がなんだか変わったね

墨塗り教科書・・・教科書を作り直していたら、授業間に合いません。そこで、みんなが持っている教科書の、必要なくなった部分を読めなくして使いました。そのために墨を塗ることが多かったの
で、こう呼ばれます。

8 【復興に向けて】

敵だった国との交流や、貿易がまた始まりました。連合国が日本を占領していた間、**輸出品**には、ある言葉を表示する決まりがありました。それはどんな言葉でしょう？

展示や解説をよく見て、□にカタカナを書きましょう。

メイド・イン・□ □ ユ □ イド・ジャパン

輸出品・・・外国へ売る物。この時代の日本からは、お皿、おもちゃ、カメラなど色々な製品を輸出しました。反対に外国から買う物を輸入品といいます。

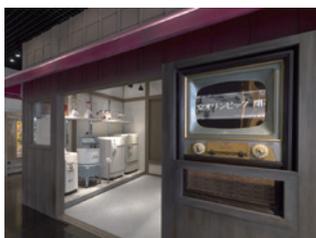
● ● ● ● 日本の経済はだんだん豊かになり、新しい電化製品が広まりました。そして、人々がレジャーやおしゃれを楽しむ機会も増えていったのです。 ● ● ● ●

【昭和のくらしー昭和30年代 体験エリアー】

今から70年くらい前のくらしを体験してみましょう。

電化製品のお店 **昭和電器**

みんながあこがれた「三種の神器」！このコーナーに、それぞれ何台あるか、数えてみましょう。



テレビ	台
電気洗濯機	台
電気冷蔵庫	台

☆体験しよう **井戸ポンプ**

水道が当たり前になる前は、井戸で水をくむのが習慣だったのか～！

水に混じった砂などが、ふるろにたまるしくみ



未来のために、歴史をふり返って考えることが大切です。昭和館で知ったことや気づいたことを、ぜひ友達や家族に話して、いっしょに考えてみてくださいね。

もっとくわしく知りたい人へ
ホームページで「学習シート」をダウンロードできます

